

(1) 教育課程

ア 授業時数配当表

学年	教科										計	特別の教科 道徳	特別活動	自立活動	作業学習	総合的な学習	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語(英語)								
1	140 (4)	105 (3)	140 (4)	105 (3)	45 (1.3)	45 (1.3)	105 (3)	70 (2)	140 (4)	895	35 (1)	35 (1)			50 (1.4)	1015	
2	140 (4)	105 (3)	105 (3)	140 (4)	35 (1)	35 (1)	105 (3)	70 (2)	140 (4)	875	35 (1)	35 (1)			70 (2)	1015	
3	105 (3)	140 (4)	140 (4)	140 (4)	35 (1)	35 (1)	105 (3)	35 (1)	140 (4)	875	35 (1)	35 (1)			70 (2)	1015	
自閉症・ 情緒障害	1 (4)	2 (2)	3 (4)	140 (4)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	35 (1)	735	35 (1)	35 (1)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	1015
知的障害	1 (4)	2 (2)	3 (4)	140 (4)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	35 (1)	735	35 (1)	35 (1)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	1015	

イ 各教科の指導計画

- ・指導内容を精選し、1時間の指導の重点を明らかにし、基礎・基本の徹底を図る。
- ・学習の仕方を指導し、主体的に学習する態度・習慣の育成を図る。
- ・「一宮市中学校教育課程」に基づき、生徒の実態を考慮した指導計画を立てる。

	重点目標	対策及び学力向上に向けた取り組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や場面に応じて、的確に書いたり、話したり、聞いたりする能力を育てる。</li> <li>・目的に応じて取捨選択しながら、言葉の意味・働き・使い方・対象と言葉の関係・言葉と言葉の関係等に注目して、必要な情報を活用できる能力を育てる。</li> <li>・語彙を増やすとともに、漢字・語句についての理解を深める。</li> <li>・文脈の中における語句の意味や内容を的確に読みとる力を高め、進んでさまざまな文章に触れようとする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション活動を重視し、「書くこと・話すこと・聞くこと」の活動の場を計画的に設定する。</li> <li>・授業の中で、学校図書館の活用を設定する。</li> <li>・漢字・語句に関する指導を丁寧に行ったり、継続的に小テストを行ったりすることで基礎的な学力の定着を図る。</li> <li>・ペア学習や小集団学習を取り入れ、生徒主体の授業を行う。スモールステップを設定し、授業内で到達度を確認しながら的確に読み取る力を育てる。</li> <li>・生徒自身が目的をもって、言葉や文章を手がかりに考えることができる活動を行う。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的分野では、社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどと人間の営みと関連付けて考える力を育成する。</li> <li>・歴史的分野では、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異、事象同士を因果関係などに関連付けて考える力を育成する。</li> <li>・公民的分野では、社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のために選択したり、判断したりできる力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元全体を見通した課題を設定し、追究したり解決したりする活動を行う。</li> <li>・作業的・体験的な学習などを取り入れ、主体的に学ぶ態度を育成する。</li> <li>・ペア学習や小集団学習など生徒主体の対話的な学びを取り入れ、事象同士を比較したり、その関連を説明したりする言語活動を行う。</li> <li>・付箋やミニホワイトボード、タブレット端末を用いたフェシリテーションを活用し、相互作用の学びにする。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などについての基礎的な理念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</li> <li>・数学的な見方・考え方(事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目してとらえ、論理的、統一的、発展的に考える能力)の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着のために、スモールステップで到達度を確認し、授業で復習する機会を増やす。</li> <li>・ICT機器を活用して、問題提示の方法や発問を工夫することで、結果や結論までの過程を言葉などで表現させる。</li> <li>・内容や実態に合わせて、ペア学習、グループ学習を取り入れ、生徒主体の授業を行う。</li> <li>・既習事項を想起して、学ぶ内容の関連を意識し、復習しながら問題解決できるように授業を展開する。</li> </ul>

	重点目標	対策及び学力向上に向けた取り組み
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解させるとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けさせる。</li> <li>自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。</li> <li>自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業において、ICT機器を活用するなど、生徒の興味関心を喚起する教材教具を提示する。</li> <li>生徒一人ひとりが主体的に問題解決できるように対話的な学習過程を工夫する。</li> <li>身近な自然事象に直接ふれることができるような教材・素材の研究・開発に努める。</li> <li>小テストを繰り返し実施し、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>ペアやグループでの活動を実践し科学的思考力の向上を図る。</li> <li>1枚ポートフォリオを用い、自らの学習状況を把握させるとともに、学ぼうとする意欲を育てる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して音楽性を高めると共に音楽を愛好する心情や豊かな感性を育てる。</li> <li>音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けて聴いたり、表現したりする能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の音楽と世界各国の音楽とを比較するなど、比較鑑賞を行うことで、双方の音楽についての理解を深めるよう指導を工夫する。</li> <li>鑑賞と表現を一体化したカリキュラムを作成し、目標の明確化を図る。</li> <li>毎回授業の最初に、発声や楽器の演奏などの基礎・基本に取り組む時間を設定する。</li> <li>毎回の授業で振り返りを行い、自己の変容を客観的に捉えることができるようにする。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育てる。</li> <li>美術作品や身のまわりにある対象や事象の中の造形的な美しさに対して感性や想像力を働かせ、自他の作品のよさや制作に取り組む態度を認め合い学び合いながら、構成を練ったり創造的な工夫をしたりする粘り強さを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形活動において、自己の感性や想像力をもとに形や色などから受けたイメージを造形的視点からとらえ表現できるように、ワークシート等を活用し、個々の特性に応じて支援する。</li> <li>スケッチ指導を継続的に行うことにより、基礎的な表現力の向上を図る。</li> <li>発想のヒントになるよう、鑑賞活動を積極的に行う。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、体力向上を図る。</li> <li>心と体を一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要であるという考えを維持させる。</li> <li>健康や安全に関する知識をもとに、健康的な生活習慣を身につけることにより健やかな心と体を育てる。</li> <li>運動やスポーツを、その価値や特性に応じて、基礎的な身体能力や知識を身につけ、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武道の学習を通じて、我が国固有の伝統文化により一層親しむことができるようにする。</li> <li>発達段階をふまえた保健内容の体系化を図り、健康の概念や課題などの内容を明確に示す。</li> <li>体力の向上を図ることができるように「体づくり運動」の一層の充実を図る。</li> <li>「体づくり運動」以外の領域においても学習した結果として、より一層の体力の向上を図ることができるように指導のあり方を工夫する。</li> </ul>
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に必要な基礎的な知識・技能の習得を通して、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。</li> <li>学校での学びを活用して自分なりの判断をし、最適解を求め続ける態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技術を習得させる。</li> <li>生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、課題を解決するような授業を繰り返す行う。</li> <li>よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う授業を行う。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。</li> <li>英語の文法規則や語彙などについての知識を十分身につけさせるとともに、実際のコミュニケーションを目的として英語を運用することができる能力の基礎を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校で身に付けたコミュニケーション能力の素地を生かす。</li> <li>英語をコミュニケーションの手段として用いる場面を多くつくる。</li> <li>「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定し、授業や評価を改善する。</li> <li>教材を工夫し、英語学習の楽しさを味わわせる授業を構想する。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いのち」の授業を中心とした小単元構想の道徳教育【生き方の「学び」プロジェクト】を行い、子どもたち自身のもって生まれた「いのち」を輝かせ、自分を生かすことの素晴らしさや前向きに生きることの崇高さを感じ取らせ、よりよく生きることの喜びを考えさせる。</li> <li>従来の型にはまった指導ではなく、主体的・対話的で深い学びにつながるように教材や生徒の実態に合わせた授業展開を工夫する。</li> <li>小単元構想をリンクした一枚ポートフォリオを中心とした評価を行い、生徒の探究学習への意欲を高める評価を行うとともに、教師の授業改善につながる評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の明確な指導観を基に、教材の活用類型を検討し、その活用例をベースとした授業展開を考える。</li> <li>自我関与、問題解決的な学習、体験的な学習等、質の高い多様な指導法の研究を行う。また、思考ツールやファシリテーショングラフィックを活用した板書の研究を行い、多様な意見を出し合ったり、出てきた意見を「見える化」したり、意見をまとめたりできる力の育成も行う。</li> <li>「考え、議論する」道徳の実現に向けた探究型道徳への転換を図るため、付箋によるブレインストーミング、KJ法、ホワイトボードミーティング等、ファシリテーションを導入する。</li> <li>生徒たちが主体的に「議論」を円滑に進めていききっかけとなるように、思考ツールを活用する。各班の生徒たちが、ホワイトボードミーティングやchromebookを使用する際に、思考ツールを自分たちで選び議論できるよう育成する。</li> </ul>

